

實るを收め、其まゝうゆれば、又八月實る物なり、生長して後、つるのさきをつみ切べし、其まゝを
 けば蔓みだれ合て、多くみのらず、實をば朝露にもり取べし、日たけてとれば實おつるものなり、
 是腎の穀なりと云て、性もよく賞翫する物なり、白さ、げ取分よし、又一種霜さ、げとて、六月の
 末に種て、十月霜をおびて取あり、早き粟跡、又ハ早苗の跡にも蒔と見えたり、所によるべし、籬豆
豆には白きあり、青きあり、赤きあり、長短かれ、これ品々多し、三月の節より五月の中まで、其間十
 日十五日を隔て、漸々に種べし、まかれれば七八月まで、段々に實る、但餘り早すぐれば寒に痛み生
 せず、又生しても生長しがたし、沙地なれば、苗のやはらかなる内、きり虫切てそだがたし、其根
 のまはりに、萱の葉などを置、朝ごとに其葉に虫の食ひたる跡あるを見て、虫を殺すべし、此長豆
 豆種る地は、冬より溝をたて、それに能こゑ土を入、或はこゑをもうちからし置、右に云時節にう
 ゆべし、間一尺ばかりをきて、三四粒づ、うゆべし、又其間も二寸あまりへだつべし、よく生長し
 て後は二本か三本に定むべし、段々うすきこゑをそ、ぐべし、蔓の長さ四尺ばかりの時、さきを
 とむべし、枝おほく出るを、悉く籬にまとはすべし、まとはざれば實ならず、夏の菜の内第一の物
 なり、家々に欠すつくるべし、猶手入多し、小民なべて作る物にて、人みなしれる所なれば、くはし
 くは記さず、沙地にをそく種れば、切虫き

〔菜譜下〕豆

さ、げを角豆とかくは非也、農政全書、穀雨の後にうふ、三月月令廣義曰、灰にて壅

ふに宜し、豆はつる長して籬にはふさ、げ也、白あり、紅あり、へり赤きあり、いづれも味同じ、性
 よし、さや長きは一尺四五寸、二尺にいたる、又みじかくして一ふさに多くなるあり、いづれもさ
 やともに煮て食す、性よし、夏菜の上品なり、民用を助る事、茄子に對す、三月の節より六月の中
 初まで、間十日十五日程へだて、漸々にうふべし、甚早ければ寒にいたみて不生、生じても苗長
 じがたし、又早くうふれば早く枯る、故に追々におそくうふれば、七八月九月の初まで實あり、五